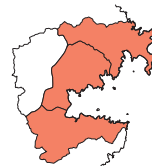


トイレを作れ！

～それぞれの避難所で～



▲まず仮トイレ（右手前）を作った。仮設のトイレ（ブルーシートのトイレ）が完成するのに2日かかった。

写真提供 南三陸町社会福祉協議会

町の60%の建物が流失し、約1万人もの住民たちが避難者になった。空腹には耐えられても、排便は我慢できない。何よりもトイレの確保を急がなければならなかった。

ベイサイドアリーナや平成の森、小中学校等の大きな避難所の水洗トイレは、すぐに貯水槽の水が切れて使えなくなった。近くに貯水池やプールなどがあるところでは、その水も利用した。しかし、どの避難所も利用者が大勢いたため、野外に仮設トイレを作る必要があった。避難者自ら材料を集め、穴を掘り、囲いを作った。木製の洋式便座を作るところもあれば、漁業用の万丈カゴを伏せて穴をあけ、便座にしたところもあった。浄化槽のマンホールの蓋を外し、流れてきたポータブル便器を拾ってきて、そこに便座を置いて洋式トイレ風にしたところもあった。膝の悪い高齢者や和式トイレを使用したことのない子どもたちが利用しやすくするための工夫である。

地域の集会所が避難所となったところでは、トイレが汲み取り式のところが多く、断水の影響を受けなかった。

いずれの避難所でも、避難していた大工や土木経験者の働きで仮設トイレが作られ、避難住民同士の協力によって維持管理がなされた。